



清田区は平成19年11月に誕生10周年を迎えました。これを記念して、「白旗山」「あしりべつ川」「平岡梅林」の3つを「清田区のシンボル」に決定しました。

広報さつぽろ清田区版をはじめ、さまざまなイベントで区民167人から380点の応募があり、重複候補を除いた132点の中から、清田区10周年事業実行委員会が決定しました。

このコーナーでは、3つのシンボルの魅力を伝えるとともに、清田区ふるさと遺産を紹介していきます。

今月は、第1弾として「平岡梅林」を紹介します。

平岡梅林は、清田区唯一の総合公園である平岡公園の中の西側にあります。自然の姿をとどめた樹林、三里川に沿った散策路、自然観察のできる池や「梅の香橋」付近の

湿地、原っぱがあり、アカゲラなどの動物やミズバショウといった植物、昆虫、魚などのさまざまな生き物が生息しています。



▲梅の香橋

梅林は、6・5ヘクタールの敷地に広がっており、豊後の紅梅種と白梅種が4対6の割合で千200本植栽されています。開花期は例年5月上旬ですが、今年は早まりました。咲き始めてから約2週間程度楽しむことができ、毎年10万〜20万人が訪れ、札幌の梅の名所として広く親しまれています。

梅林内には、プラムとスモモも植栽されています。花の色は真っ白なので、白梅（薄いピンクがかかった白）と見比べてみましょう。



▲白梅

また、梅林は日中に楽しむだけではなく、夜9時までライトアップされており、夜桜ならぬ「夜梅」も楽しむことができます（詳しくは、本誌区民のページ10ページをご覧ください）。

梅の花はとても甘く良い香りがします。甘い香りに包まれた梅林を、ぜひ訪れてみてください。

詳細 地域振興課まちづくり調整担当
☎(889)2400(内線252)

◀満開の梅林



ライトアップの様子▶



きよた 地名考

かつて、清田区を中心は「厚別」と呼ばれていました。ところが、番地が千を超えたことから混乱が生じ、分かりにくくなったため、昭和19年3月、当時の豊平町議会で現在の地名になりました。

このコーナーでは、清田区の歴史を振り返りながら、地名の由来を紹介していきます。

第1回 清田

「清田」は、もとは「厚別本通」と呼ばれ、札幌本通（現在の国道36号）沿いで水田が一番美しかったことから、当初は豊平町の「豊」と田んぼの「田」の字をとって「豊田」にしようと考えられました。

しかし、道内に同じ地名があったことから、美しく清らかな水田地帯という意味で「清田」と名付けられたといわれています。

水田は、現在の清田小学校校庭の辺りから開墾され、次第に厚別川のほとりに広がり、清田は米作り農村として栄えていったそうです。

明治32年には月寒尋常小学校厚別分教場（現在の清田小学校）が開校、そして昭和30年代後半からは、清田団地の開発に伴って宅地が広がり、地名の由来となった水田風景は姿を消していったのです。

ところが、平成17年、清田小学校の一角に水田が復活しました。この水田は田植えや収穫・精米、虫の観察など、子どもたちの学習の場として活躍し、「ゆめ田んぼ あしりべつ」の愛称で親しまれています。そして、夏は青々とした、秋にはたわわに実った黄金色の稲穂が、道行く人々の目を樂しませてくれます。



▲上空からみた清田地区 ゆめ田んぼ あしりべつ▶